

国語科事例2 評価場面を精選した実践事例

『竹取物語』の魅力を簡潔な言葉で伝えよう

～構成や展開, 表現の効果について根拠を明確にして考える～

第1学年 [知識及び技能] (3) ア [思考力, 判断力, 表現力等] C 読むこと (1) イ・エ 言語活動例 C (2)

1 単元の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりを知り, 古文を音読し, 古典特有のリズムを通して, 古典の世界に親しむことができる。 [知識及び技能] (3) ア
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) イ
- (3) 文章の構成や展開, 表現の効果について, 根拠を明確にして考えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) エ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

2 教材名 『蓬莱の玉の枝—「竹取物語」から』 (光村図書 1年)

3 生徒の実態 (略)

4 指導の内容と言語活動, 教材のかかわり

(1) 言語活動設定の意図

本単元では長年読み続けられた「竹取物語」の魅力を生徒が見つけていくという言語活動を設定した。まず生徒に音読を通して, 歴史的仮名遣いや古文特有の言葉・リズムに慣れ古文の世界に親しみをもたせていく。

次に, 昔話「かぐや姫」の読書経験を踏まえて教材を読んでいき, 書かれている内容を知っていく。その中で自分のもっていた昔話「かぐや姫」の印象との比較を通して生徒自身の作品に対する思いや考えを再考していく。その際, 補助教材として, 学校図書館にある書籍を利用したり, 資料集を用いたりして, 教科書に書かれている内容だけでなく部分を生徒に提供することで, 作品の内容理解をより深めていく。

そして, 「竹取物語」が現在でも読まれている理由について考え, 一言で魅力を表すフライヤーを作成する。生徒が学んだ知識を基に考えた「竹取物語」が読まれ続けている理由について, 他者へ発信するキーワードカードを作成する活動を通して, 古典への親しみや作品に対して目的意識をもって読むことができる生徒の育成へとつなげていきたい。

【5つの言語意識】

目的意識	根拠を明確にして作品の魅力を伝えるため
相手意識	学級の仲間に対して
場面状況意識	作品の構成や展開, 表現の効果を読む場面で
方法意識	作品の魅力を選んだ意図を他者へ発表することを通して
評価意識	根拠を明確にして作品の魅力を伝えることができたか

(2) 教材の特徴

「蓬莱の玉の枝」(「竹取物語」)は, 「源氏物語」において「物語の出で来はじめの祖」と語られている日本最古の物語である。「かぐや姫」として, 生徒がこれまでに耳にしたり目にしたりしてきた作品であり, 生徒にとっても親しみのあるものである。小学校では音読を通して古典と触れ合っている生徒にとって, 中学校で本格

ポイント 1

魅力ある言語活動を設定する



的な古文学習の最初の教材としてとても価値のある作品であるといえる。教科書では「かぐや姫の誕生」「かぐや姫の難題に挑む貴公子の姿」「かぐや姫を失った帝の行動」が書かれており、昔話「かぐや姫」を知っている生徒にとっても興味をもって読むことができる教材である。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができている。(3)ア)	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	①進んで、文章の構成や展開、表現の効果について考え、学習の見通しをもって作品の魅力を伝えるポップを作ろうとしている。

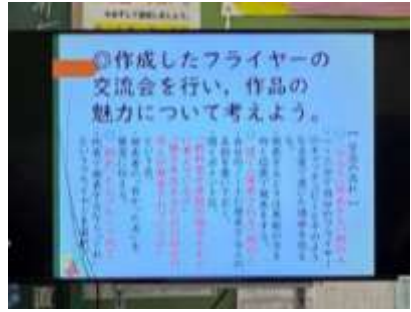
※ 本単元では、[思考力、判断力、表現力等]C(1)エを特に重点的に指導し評価する。



ポイント 2

評価場面を精選する

6 指導と評価の計画(C「読むこと」60時間中の5時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○「作品の魅力が伝わるフライヤーを作る」という学習の見通しをもつ。 ○「かぐや姫」の概要と作品の主題について考える。	・生徒が進んで古典の音読や読解を行うことができるよう、絵本等身近にあることを伝え、学習の見通しがもてるようにする。 ・フライヤーとはどのようなものであるかを生徒へ提示する。 ・昔話等生徒の読書経験に触れながら、作品の内容や伝えようとしたことを考えるよう指導する。	
2	○歴史的仮名遣いや古文特有の単語に注意して「竹取物語」の冒頭部分を音読する。また、現代語訳を使い内容を確認する。	・速度を変えたり、モニターに映し出す内容を変えたりして、繰り返し音読を行い、歴史的仮名遣いの読み方に慣れるように指導する。	[知識・技能]① <u>観察 ノート</u> ・歴史的仮名遣いを正しく理解し音読できているか確認する。 ※本評価は、Aと判断する状況については単元終了後のテストで判断する。
3	○「蓬莱の玉の枝」「富士の山」「昇天」の場面を音読し、資料集を使いながら教科書に書かれていない部分も含めた作品全体の内容を確認する。	・歴史的仮名遣いの読み方に慣れるように指導する。 ・現代語訳や資料集を用いて、「蓬莱の玉の枝」「富士の山」「昇天」における登場人物の相互関係や教科書に書かれている場面以外の部分も含めた作品全体の内容を提示する。 ・「五人の貴公子」「帝」の人物像について、描写を基に自分の考えを記述するよう指導する。	[思考・判断・表現]① <u>ノート</u> ・作品内容の理解や登場人物の相互関係について、描写を基に正確に捉えているか確認する。 ※本評価は、Aと判断する状況については単元終了後のテストで判断する。

4	○「五人の貴公子たちの失敗」,「帝と姫の関わり」,「昇天の場面」から読み取ったことを基に,「竹取物語」の魅力について自分の考えをまとめ,フライヤーを作成する。(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた作品の展開や人物像を基に,作品が読み継がれている理由を考えさせる。 ・現代の私たちとの共通点や相違点を含めて考えていくことを伝える。 ・簡潔に作品の魅力を伝えるフライヤーを作成することを指示する。 	<p>[思考・判断・表現]② 制作物 ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作られたカードの内容について,描写を基に根拠を明確に挙げているか確認する。
5	○作ったフライヤーについて交流し,学習後の感想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が作成したフライヤーについて,そのキャッチコピーを選んだ理由を友人へ簡潔に伝える。 ・今回の学習全体を通して「わかったこと」「今後できそうなこと」を観点として振り返りを行う。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 制作物 ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・描写を基に自分の考えを記述しているか確認する。

7 本時の指導(略)

8 本時の評価の実際

本時は, [思考・判断・表現]②について,制作物やノートを基に評価した。

○「十分満足できる」状況(A)

自分の読みから考えた作品の魅力をキャッチコピーのような簡潔な言葉で表していることに加えて,本文中の描写を引用していること,また現代の人がこの作品を読む価値などについて言及している作品を十分に満足できる状況(A)と判断した。教科書に掲載されている部分に書かれていない詳細についても,主体的に他の場面を読み,自分の理解につなげることができている。学習感想の記述においても,昔話との比較や現代の作品との関連など,根拠を明確にした上で,自分の考えをアウトプットにすることができていた。

○「おおむね満足できる」状況(B)

右の学習感想は B と判断する状況の生徒のものである。この生徒のフライヤーには作品の魅力について,自分が読んだ感想を中心に記述している。また教科書本文にある内容について言及し,作品の魅力を発信する記述が書かれている。また,学習感想には本単元で学んだ内容を通して,古典を読む意味など自分の考えを記述している。しかし,古典の他の作品や現代の作品との比較など,時代を超えた作品の魅力を語る上での根拠となる部分が記述されていない。自分の考えを発信するという点において,さらに論を強くしていくための手立てを伝えていくことで十分満足できる状況となる。

○「努力を要する」状況(C)

例えば,フライヤーや学習感想の記述から,冒頭部分や帝との関わりについて言及しているが,本文からの引用がないなど内容として不十分であるような生徒が見られた。そのような生徒は,現代語訳を中心とした内容理解が十分でないため,前時までの内容を振り返らせたり,自分の興味や関心をもった点などを整理させたりする指導を行い,整理させた部分を中心に資料集や他の資料も読ませることで,内容理解を進めることができた。また,他の生徒の作品を読むことで,新たな視点に気付くこともあり,自分の読みの広がりや深まりにつなげていくよう指導を行った。



ポイント 3

生徒の具体的な姿を想定する

参考:【生徒作品の一例】

